

20年代

明治23年11月に舟形村から分村した堀内村が64年の月日を経て、再び昭和29年12月に合併し、人口12,007人の「地下資源の宝庫舟形町」が誕生した。町は、近代産業の基幹となる石油、亜炭を保有する町として県からも期待され新たな船出をすることとなる。



旧舟形中学校落成式（S 2 7）



第2回村民大運動会（S 2 9）



供出米一番乗り（農協前）



公民館活動始まる（S 2 7）



県青少年問題協議会長より表彰を受けた富田若竹子供クラブ放送班（S 2 7）



舟形橋工事を手伝う中学生（S 2 7）



最初の舟形村教育委員会（S 2 7）



幅婦人会が新生活事業モデル町村に選定（S 2 7）



舟形村第1号消防自動車（S 2 7）



野、幅、沖の原に電話設置（S 2 7）



福寿野で県広報活動（S 2 8）

30年代

高度経済成長期を迎え、交通網の整備、教育環境の整備が重点的に図られるが、亜炭山の不況により町税の減収が町の財政を苦しめた。しかしながら、農業生産基盤の整備に力を入れ、農業振興の町へと変遷する礎を築き始めた。



冬の国道13号舟形橋



舟形本町お祭り風景（S31）



商工会設立（S36）



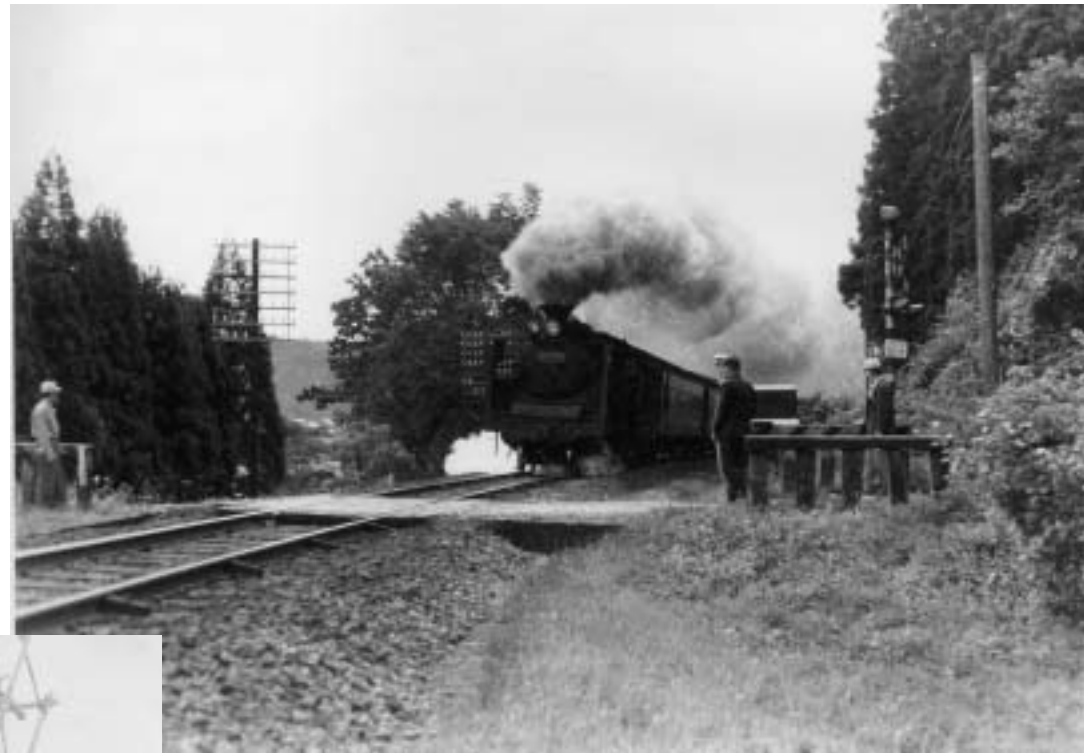
飛行機とばし大会（富小）



公民館で開催された社会学級



町にプールがなく小国川で泳ぐ子供達（S38）



沖の原踏切を通るSL（S35）



建設中の富長橋（S34）



長者原に婦人消防団結成（S37）



猿羽根山隧道開通式（S36）



五月みどりショー（S38）

40年代

役場庁舎が新しくなるとともに、衛生的文化的生活への実現に向けた拠点施設の整備が始まる。反面、高度経済成長のなかで米の生産調整政策が始まり、また、農家は現金収入を求め冬期間出稼ぎという現象が生まれた。町は企業誘致への対応を図り、見事その実現を見る。

新庁舎落成式（S 4 3.7.25）



8.1 集中豪雨により奥羽本線20日間不通（S 4 9）



新庁舎起工式（S 4 2.6.8）



師走の衆議院議員選挙（紫山）（S 4 4）



長沢小学校歌制定記念式典



当町初の流雪溝工事



町内駅伝（福寿野優勝）



実栗屋・松橋方面にスクールバス開通（S 4 6）



猿羽根山遊園地オープン（S 4 8）



飯倉児童交流始まる（S 4 8）



ウツシカワ縫製工場開業（S 4 8）



町民プールオープン（S 4 6）

50年代

保育所の整備など就労確保のための再整備がなされるとともに、福祉行政への充実を推進した。また、教育面においては、分校廃止や学校統合を進め近代的な教育環境が整備され、社会教育の拠点施設の充実を図り人づくり・地域づくりを推進した。



増水により土台が削り取られ、傾いた西又教職員宿舍（S 5 1.8.6）



週2回のご飯持参給食始まる（S 5 1）



第1回若鮎祭り（S 5 6）



ハリヨ地区亜炭鉱害復旧事業（S 5 5）



南部保育所開所（S 5 8）



NHK夏の全国巡回ラジオ体操に町民2,000人が参加（S 5 2）



保健センターオープン（S 5 8）



B&G海洋センターオープン（S 5 6）

60年代

バブル期を迎えた60年代は、国の「ふる里創生資金」も手伝いレジャー施設整備を行う。また、農家の兼業化に伴いそれまで展開してきた農業生産基盤の整備から技術支援に移行してきた。

平成の時代に入りバブルがはじけ、国の経済情勢は混迷した。地方自治体の財政状況も苦しくなり平成の大合併がさげばれる中、町は新庄市との合併を進めた。しかし、県内初の住民投票が行われ、その結果、合併を断念し今を迎えている。



鮎祭りでの鮎つかみ取り（S 6 1）



解体前の舟形駅



最後のふるさとまつりでの仮装大会（光生園チーム）



30周年記念事業で北見恭子ショー（S 6 0）



第1回東北鞍馬競技舟形大会開催（S 6 2）



第3回全国雪サミットを舟形町で開催（H 1 2）



富田町内運動会



ふるさと消防フェア



西の前遺跡で八頭身美人土偶発掘（H 4）



新しく生まれ変わる長沢橋（S 6 2）



雪中田植え（南部保育所おさいど）



30周年記念事業雪祭り開催（S 6 0）